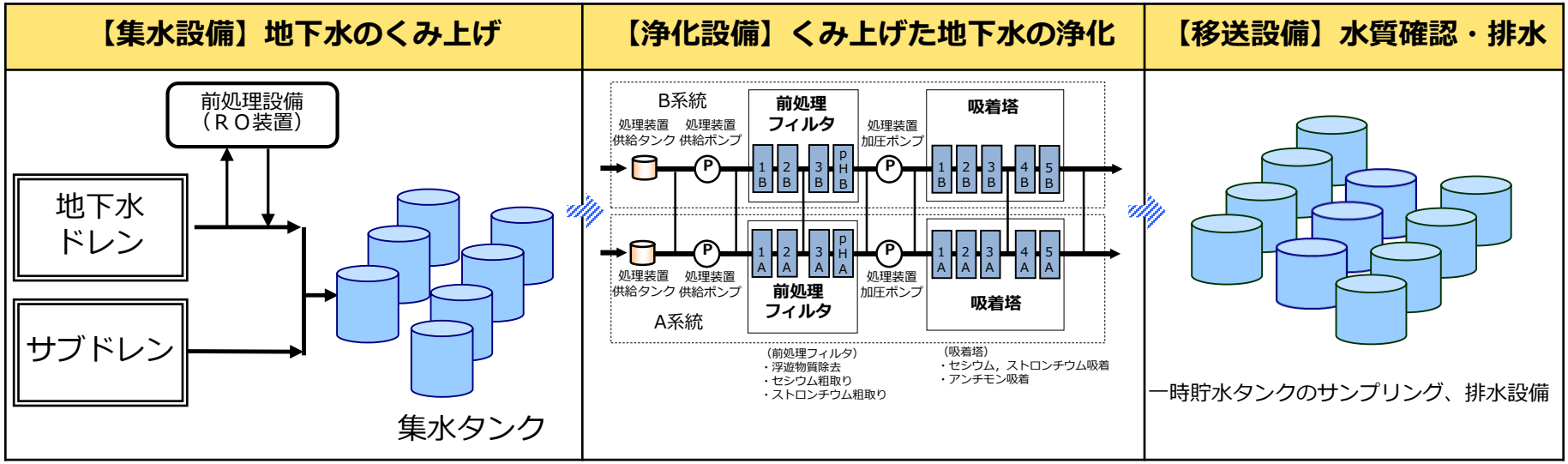
サブドレン他水処理施設の運用状況等

2026年 11月 26日

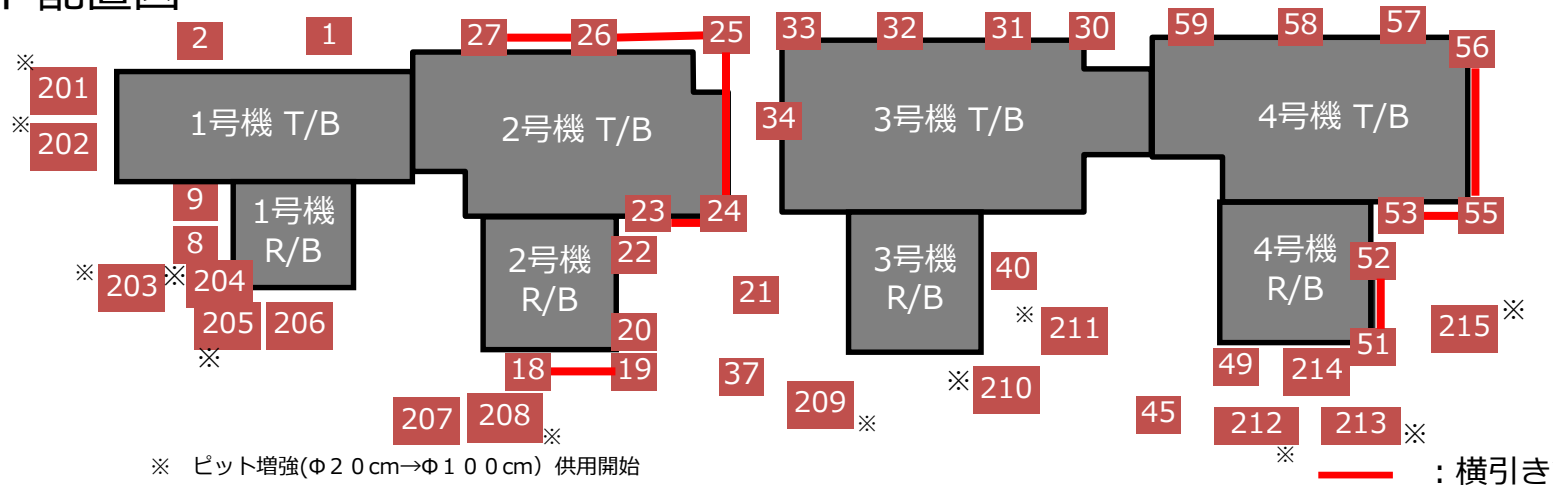
東京電力ホールディングス株式会社

1-1. サブドレン他水処理施設の概要

・設備構成



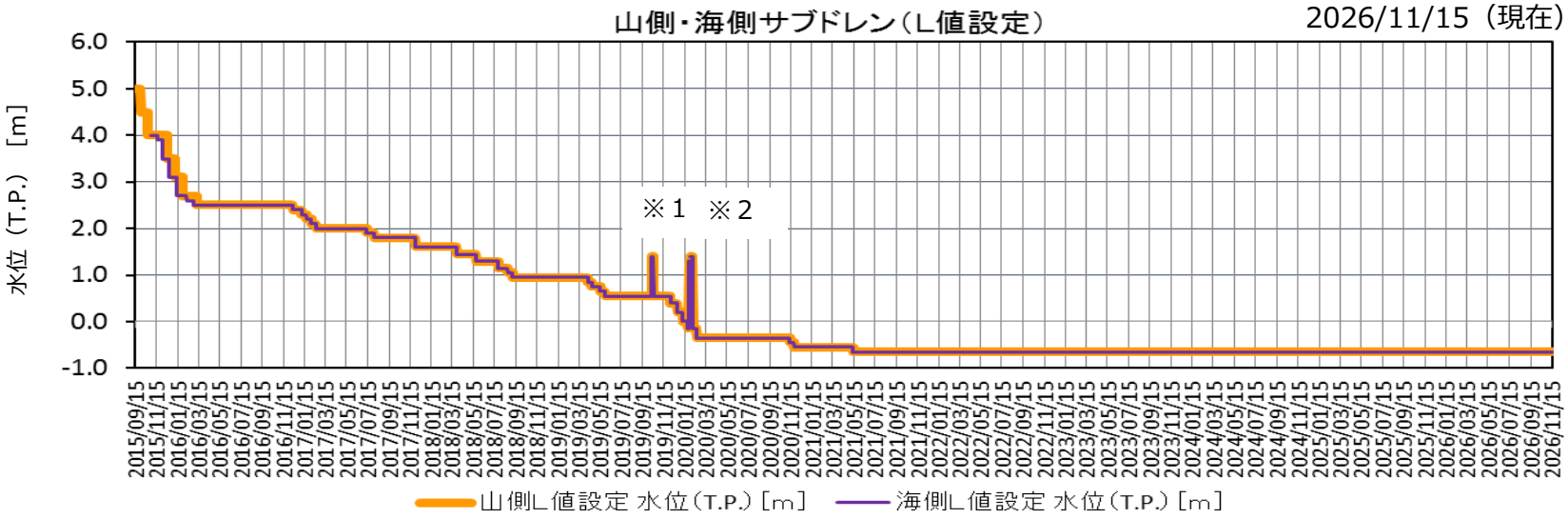
・ピット配置図



1-2. サブドレンの運転状況（２４時間運転）

- 山側サブドレン設定水位のＬ値をT.P.+5,064mm から稼働し、段階的にＬ値の低下を実施。
  実施期間：2015年　9月17日～、　　Ｌ値設定：2021年5月13日～ T.P.-650mmで稼働中。
- 海側サブドレンＬ値をT.P. +4,064mm から稼働し、段階的にＬ値の低下を実施。
  実施期間：2015年10月30日～、　　Ｌ値設定：2021年5月13日～ T.P.-650mmで稼働中。
- サブドレンピットNo.30,37,57を復旧し、2018年12月26日より運転開始。No.49ピットは復旧後、2020年10月９日より運転開始。
- サブドレンピットNo.21は、２号機燃料取り出し構台の設置工事に干渉するため、移設を行い、2022年10月7日より稼働を開始した。
- サブドレンNo.40ピットにて2022年4月21日に油分（低濃度PCB含有：0.56mg/kg）をうけ、周辺ピット（No.40,210,211ピット）の停止及び油分拡散抑制として、鋼矢板の設置等を行い、2023年10月2日よりNo.210,211ピットを再稼働し、2023年11月8日から連続運転に移行した。

- その他トピックス
  ・サブドレンNo.207（2025年５月より増強ピットにて稼働）について、2026年10月2日にピット内の水位計点検の際に、水位計が引き抜けなかったため、内部のカメラ調査を試みたが、ピット内濁りために内部確認ができなかったことから、ポンプを停止しし、濁りを抑制させた状態で10月15日に再度カメラ調査を実施した結果、ピット内に土砂が堆積していることを確認した。
  ・今後、原因調査のうえ、速やかに対策＊を実施する。
  ＊増強前のNo.207ピットも同様に土砂堆積が確認されており、そのときの対策は、ピット損傷箇所レベルより高い位置までコンクリートを充填し、水位計及びポンプ設置位置を引き上げて、復旧した（2024年7月に発生、2024年9月より短時間にて稼働再開）。



※１　台風19号対応として10月12～15日の間、一時的に全ピットのＬ値をT.P.1400mmに変更した。
※２　1月の大雨に備えて基本のＬ値をT.P.1300mmとし、２月７日に水位設定値を元に戻した（Ｌ値:T.P.-0.15 m）

1-3. 至近の排水実績

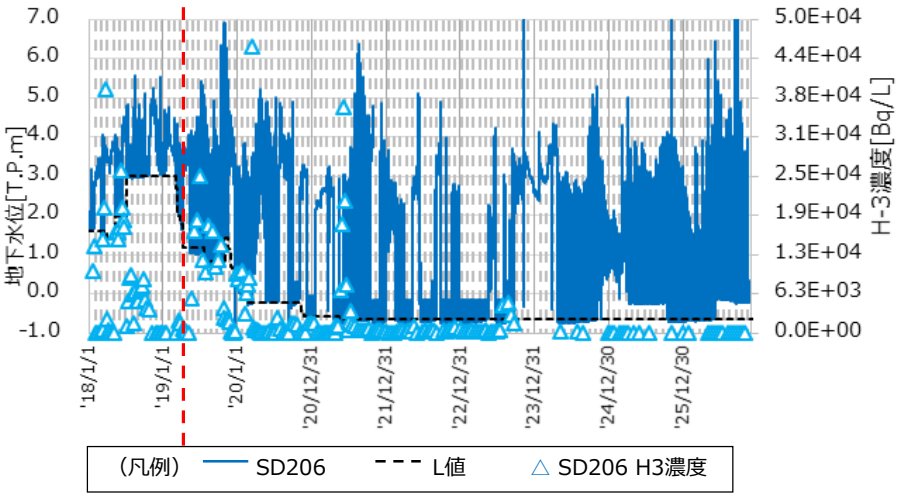
- サブドレン他水処理設備においては、2015年9月14日に排水を開始し、2026年11月16日までに3,092回目の排水を完了。
- 一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標（Cs134=1, Cs137=1, 全β＝3, H3＝1,500(Bq/L)）を満足している。

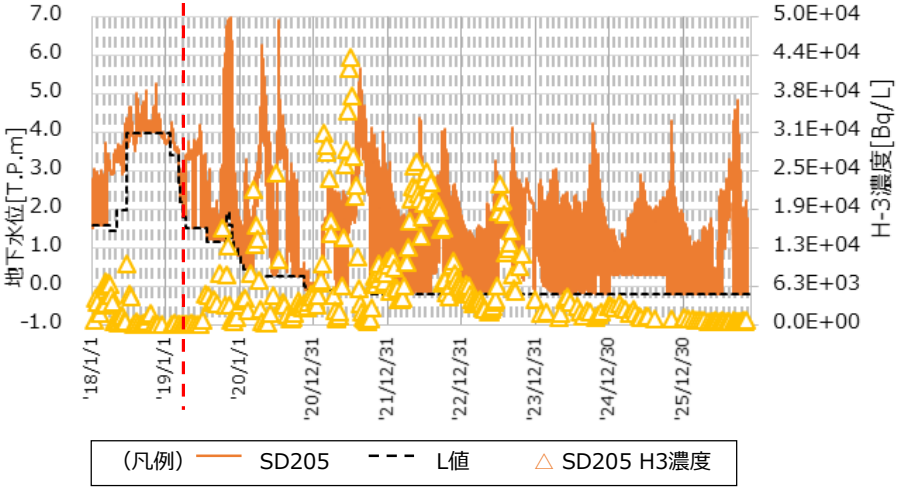
排水日		11/11	11/12	11/14	11/15	11/16
一時貯水タンクNo.		J	L	K	D	C
浄化後の水質(Bq/L)	試料採取日	11/6	11/7	11/8	11/10	11/11
	Cs-134	ND(0.75)	ND(0.86)	ND(0.62)	ND(0.60)	ND(0.86)
	Cs-137	ND(0.58)	ND(0.67)	ND(0.52)	ND(0.69)	ND(0.69)
	全β	ND(1.9)	ND(1.8)	ND(2.0)	ND(0.72)	ND(2.0)
	H-3	350	360	360	370	360
排水量（m^3）		654	1,002	1,016	998	988
浄化前の水質(Bq/L)	試料採取日	11/4	11/5	11/6	11/7	11/9
	Cs-134	ND(3.9)	ND(4.6)	ND(5.4)	ND(5.8)	ND(5.1)
	Cs-137	100	110	98	66	82
	全β	–	–	–	–	270
	H-3	410	440	390	260	330

＊NDは検出限界値未満を表し、（　）内に検出限界値を示す。
＊運用目標の全ベータについては、10日に１回程度の分析では、検出限界値を　1　Bq/Lに下げて実施。
＊浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。

【参考】 1/2号機排気筒周辺サブドレンピットの水質

2019/2/6地改良完了





2018/11/6地盤改良完了

